



医療・介護を通して地域を支え、さらに職員の健康増進により活力のある地域へ

「健康経営に取り組みようと思われたきっかけは？」

上山市を中心に、山形市や河北町で地域住民の健康を支える医療・介護にかかわる施設を運営。雇用を生み出すことができ、医療・介護を安心して受けられる環境が整備されていることは、人口減少を食い止める力になると考えています。さらに、専門知識を持つ職員がその町に暮らすことで、環境と人双方から地域を支える「地域の持続可能性における車の両輪」になり得るのではないのでしょうか。そこで、職員自身の身体的・精神的健康の維持増進を図ることが、最も優先されるべき人的資本への投資と位置づけ、健康経営に取り組みようになりました。



▲スポーツを通じて地域の健康づくりへの貢献を目指す
 ◀今年開催したクアオルト「ヤッホー」
 ◀参加者みんながウォーキング

「具体的な取り組みがあれば教えてください。」

まず一つは、法人内にある柔道クラブ、ランニングチーム・クアオルト部の活動支援をメインとしたスポーツ活動の推奨です。それから、花笠まつりへの参加や朝のミーティング等で行う理学療法士監修のストレッチのほか、運動機会増進アプリの導入、禁煙支援、メンタルサポートなどを実施しています。

「これから実施していきたいことはありますか？」

「健康経営優良法人」の認定をいただき、健康に対する職員の意識が変わり、法人内の雰囲気明るくなってきたように感じます。今後、職員一人一人が健康でプライベートでも様々な分野で地域に貢献するような状況が理想です。クアオルトで職員のみならずお取引先様にもお声がけをする、柔道クラブで地元学生に指導するなど、地域の健康づくり発信源となれたらと思います。